

牛久：学校周辺に見る自然

第9号 牛久自然観察の森

2017年7月3日発行

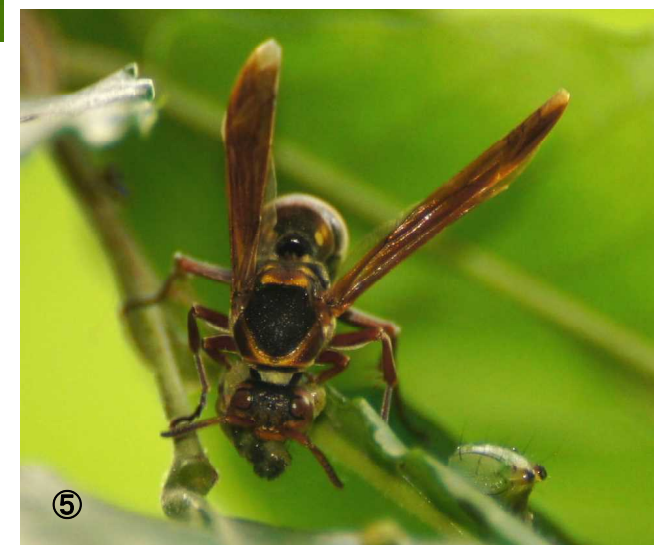
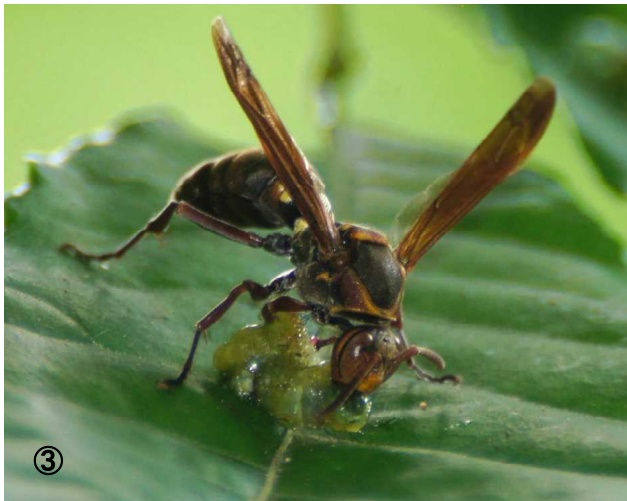
< 子育てのための狩り >

6/29の午後、梅雨の晴れ間に牛久自然観察の森を歩いてきました。クリの葉に穴が開いていたので探すと、ツマジロシャチホコというガの幼虫がバリバリと葉を食べていました。写真にとろうと思った、その時です。キボシアシナガバチが飛んできて、パッとその幼虫にとまりました。そして、



ほんの10分くらいで見る見るダンゴにしてしまいました。ざんこくだと思いますか？じつは、このダンゴは自分で食べるものではありません。巣に持ち帰って、子どものえさにするのです。こうして次々とえさを与えないと、子どもは死んでしまうのです。また、結果的に、クリの木の害虫であるガの幼虫が増えすぎるのを防いでもいます。これからも、こうした生きものどうしのつながりを紹介していこうと思います。

【理科支援員：宮内】



①クリの葉を食べていたツマジロシャチホコの幼虫を捕え、②頭部のつけ根にかみつ、硬い頭と内臓を取り除いた後、③～⑤筋肉をよく噛み砕いて団子にしていくキボシアシナガバチ。団子は巣に持ち帰り子どものえさにする。